



年年歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず

「走りながら考える」と公言してスタートした介護保険制度は、5年を一期とし、3年ごとに見直しを行った第1期および第2期の介

「来る年も来る年も、花は変わらぬ姿で咲くが、それを見ている人は、年ごとに移り変わる。人はこの世を去って行くため、花を見る人の顔ぶれは異なる」と、人の世の無常を表した「年年歳歳花相似、歳歳年年人不同」は、182文字の

転期に立つ経営の視座② 頭巾と見せて頬被り

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

護保険事業計画を踏まえ、2005(平成17)年の介護保険法の改正により保険料の財政均衡期間との整合性を考慮し、3年を一期とした3年ごとの見直しと変わって第3期、第4期、第5期の三期9年間の実績を踏まえ、施行から16年度目の春を迎えた。

漢字が七言絶句調によって構成された漢詩「代悲白頭翁(白頭を悲しむ翁に代わりて)」の一節にあり、28歳で亡くなった中国唐代の詩人・劉希夷(りゅうきい)の代表作として、つとに知られる。

2000年4月の介護保険施行時に喧伝された「介護の社会化」は、

介護保険料を徴収される被保険者に上辺だけを美しく飾り立てた手向けの言葉だったのか。

はたまた「保険あつてサービスなし」という事態を払拭するため、介護事業者の参入を躍起になって促すための社交辞令だったのか。

いつしか、「大介護時代」と表現するように変わってきた。

15年間という時の経過は、介護保険を知る人の顔ぶれが異なってきたことの証でもある。

2025年に向かって、新たな世相を反映したプラットホームづくりが避けられない。

老少不定の習い

主宰塾に7年間も秋田から通い続けた塾生が、今夏の還暦祝いを前にして昨年暮れ早世した。

介護保険が施行した翌年、2001年9月介護事業所を起業。

職員4人で始まった事業所は、13年の月日を経て70人を超すまでの大所帯に発展。

昨春までは、健康そのものであった代表は、2025年に向けて「自分の頭で考えて行動ができる人材を育てる」ことに主眼を置いた取り組みを行っていた。

ところが、昨年5月、重篤な病に侵されていることがわかり、帰らぬ人となってしまった。

社業が拡大していく時期と相まってかわらせていただいたこともあつて、弔辞を読ませていただく機会が与えられた。

瞬時に頭をよぎった言葉は、人の無常を説いた「老少不定の習い」である。人の寿命に老若の定めはない。老若にかかわりなく、老人が先に亡くなり、若者が後から亡くなるとは限らない。

わが国は、世界に冠たる長寿大国だが、創業100年以上の業暦を持つ会社が2万6144社もあつて、長寿企業大国でもある*1。

とはいえ、起業から10年後には3割、20年後には5割の会社が廃業・倒産、合従連衡等によって淘汰されるという企業生存率データも見すごせない*2。

亡き代表の口癖に「頭巾と見せて頬被り」がある。見かけは体裁がよいが、実際はそうでなくて苦し紛れであることをいう。

15年度介護報酬のマイナス改定にのみとらわれていては、弥縫策を講じるのが関の山。「奇貨居くべし」と心得よ。

*1: 株式会社帝国データバンクの「長寿企業の実態調査(2013年)」による。

*2: 「2011年版中小企業白書」による。